

テーマ「県立高校の将来の基本的な在り方」 県立高校の魅力化・特色化、誰一人取り残さない教育の充実 ～ 第3回検討委員会が出された御意見～

1 選ばれる県立高校であるための更なる魅力化・特色化について

学校の環境と学びの多様化

- 学びたい意志のある生徒が学べる学校環境作りが重要である。
- 対話的で主体的な深い学びが重視される現在の学校教育では、クラスメイトやクラス数といった規模の大きい学校がすべての生徒に適しているわけではないと考えられる。
- 誰一人取り残さない教育を実現するために、高校教育も多様である必要がある。
- 子供の学び方は多様であり、義務教育でも学びの多様化校が設置されているため、高校でも多様な学びの提供が求められる時代となっている。
- 県立高校も一律ではなく、多様な教育カリキュラムがあっても良い。
- 県外の私立高校には、特別進学、文武両道、学び直し、不登校対応など、普通科をいくつかのコースに分けた多様なコース設置がある。県立高校も、柔軟な教育スタイルを取り入れることが望ましい。

基本的な学力や社会性・主体性の育成

- 基本的な学力はもちろんだが、高校生が主体性を持って対話や協働ができるように、悩み考える体験が重要である。
- その地域の課題について、教師も自分事として考えられる体制を整え、協働や失敗の経験が学びにつながるようにする必要がある。
- 子どもの学力と同様に、心身の健やかさ、継続力、社会性が重要であり、深い対話や主体性を育む場が必要である。

実践的な学びとカリキュラムの進化

- 山形大学では来年度から「社会共創デジタル学環」という新しい学びの場が設けられ、地域課題の見える化やデータサイエンスを活用し、地域課題の解決を目指す中で、教科横断型の知識が必要となるような実践的な学びのカリキュラムを取り入れている。
高校でも、教科横断型の知識を必要とする実践的な学びのカリキュラムが求められている。
- これからの社会において、理数系やAI、データサイエンスなどのスキルを育成するカリキュラムが望まれる。こうした教育が、高付加価値人材として山形の企業に貢献できる人材育成に繋がると期待される。

普通科の魅力

- 多くの生徒が普通科を選んでおり、普通科で学び高等教育機関へ進学できる魅力を感じる保護者が多い。
- 普通科では探究学習を通じた地域連携や特色化が重要であり、その活動や特色を広くアピールする必要がある。

社会変革を担う人材育成

- 大人ができなかったことに挑戦するような時代を切りひらく人材育成が求められる。
- 社会が転換期にある中で、国際化やIT、DXなどの分野横断的な発想に挑戦できるような、生徒がわくわくする新しい視点や挑戦を取り込むべきである。
- 生徒個々の疑問や問題意識を育てるため、バックキャスト教育やPBL(プロジェクトベース学習)が望ましい。
- 地域の歴史や文化を理解する深い学びが、国際社会での活躍にも通じるため、高校での地域理解教育が重要である。
- 中高生の若い発想を社会に反映できるよう、社会と協働した教育が重要である。

高校での自己実現と将来設計

- 高校生活を通してやりたいことを見つけ、将来の方向性が見える教育環境が望まれる。
- 小学生からの「キャリア・パスポート」の継続で、地域とのつながりを深めながら将来を描くことが期待される。

地域産業界との連携と人材育成

- 全国や世界に通じる地域産業と連携し、地域への誇りを育むような教育が重要である。
- 慶應先端研の高校生研究員の取組みは、地域連携と未来への投資として好事例である。
- 外部講師を活用することで、生徒に現実的な職業体験を提供し、進路選択につなげることができる。例として、スマート農業の体験を通し、実際の農業経営者から話を聞くことでリアルな職業観を育む。
- 地域で地域の担い手となる専門性を持った人材を育成することが望ましい。
- 若年層が地域の人々や経済界と関わることで地域への定着に繋がる。
- 山形県の将来ビジョンと高校のあり方をリンクさせることで県の特色を打ち出せる。
- 地域に開かれた学校を作ることで、学校の魅力が自然に高まる。
- 社会、学生、地域等の視点で、どのニーズを重視し、どのような人材を育てていくかは重要である。

生徒への支援体制の確立

- 大規模な学校や大集団では、主体的になれない生徒も少なからず存在するため、取り残されないような特色ある高校の創設や配置が必要である。
- 教師は日常の業務に集中するため、それ以外の支援には限界があり、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの存在が必要不可欠である。
- 仲間同士の相互関係やペアの力を引き出すように、ファシリテーター、コーディネーターのスキルを持つ教員や支援者が必要である。
- 若者サポートステーションの支援を必要とする本人が利用しやすくするため、学校との連携やカウンセラーの架け橋の役割が期待される。
- 都市部では外国籍や複雑な家庭事情を抱える生徒が多く、ソーシャルワーカーやユースソーシャルワーカーのような専門職の重要性が高まっている。
- 地域の国際化と労働力不足の課題が関連しており、外国籍の子供や文化的背景への対応が必要である。
- 選択肢の多様性は重要であるが、過剰な情報に迷う生徒も多いため、サポートが必要である。
- 誰一人取り残さない教育を実現するためには、NPO法人など外部支援団体とも連携が必要。
- 最上地区には通信制の学校がなく、選択肢のない状況が見られる。サテライト校を設置することは一つの選択肢になる。

コミュニティ・スクールの意義

- コミュニティ・スクールは高等教育機関やビジネス関係者との協力で深い学びが生まれる。
- コミュニティ・スクールの活動において、多地域から生徒が集まる都市部では地域の定義や委員選定が難しいという課題もある。

県立高校の入試制度

- 県立高校の定員割れを解消するために、第1希望が叶わなかった場合、第2希望校への進学や、多様な試験制度の導入といった魅力化もある。

高校教育の情報発信

- 県立高校の良い取り組みを広く周知し、選ばれる高校としての魅力を高めるため、ポータルサイトなどを通じ、積極的な情報発信が求められる。
- 高校で学べる内容について、生徒や保護者に希望を持たせる情報共有が必要である。
- 高校を選ぶ際、選択肢が十分に提供され、将来像をイメージしながら選べる環境が重要である。
- 地域や企業がカリキュラムに関わり、高校生へ伝える場を設定することが鍵となる。
- 高校卒業後の進路は非常に重要であり、進学や就職など多様な進路についての情報提供が必要である。
- 高校選びが偏差値に偏重している現状があるため、多様な選択肢を提示する必要がある。

- 中学校の教員も高校の情報を十分に把握していないため、情報の周知が重要である。
- 中学生の保護者が進路情報を十分に知ることで、適切な選択肢を伝えられるようにする必要がある。
- 情報は取りに行けばあるものの、多くの保護者や生徒はまだ十分に高校の選択肢を理解し、検討できていない。
- 通信制も含めた多様な選択肢があることを、前向きに想像できるような支援が必要である。
- 中学生は自分の将来像を具体的に想像できていないため、選択肢を与えられても上手く選べないことが多い。
- 山形市立商業高校は人気があり、産業系高校でも四年制大学への進学者が多いことが知られている。産業系高校が進学など多様な進路に対応していることを周知することで、希望者が増える可能性がある。

2 誰一人取り残さない教育の充実（学びのセーフティネット）

生徒の多様な教育ニーズ

- 生徒たちの多様な教育ニーズを認識し、それを出発点に据えるべきである。
- 現状、多様な教育ニーズがあり、定時制や通信制を選ぶ生徒が増えている。細かく対応する必要がある。
- 生徒全員をサポートするためのリソースの配分が課題であるが、これからは特別な支援に力を入れる時代である。
- 生徒が将来自立し、社会で生きていけるよう、どのような学びの高校を用意するかが課題である。
- 学びたいと思う全ての生徒が学ぶことができる環境を整えることが望まれる。
- 多様な学びのスタイルがあり、通信制やオンライン教育は有効であるが、能動的な学びが重要である。
- 高校は義務教育ではなく、学びたい意欲のある生徒に学びの場を提供すべきである。

教育体制と人材の確保

- 教育には人材の確保が重要で、きめ細やかな教育のためには人材配置や投資が必要である。
- 誰一人取り残さない教育は全日制高校にも通じる課題であり、教育施設や教職員への投資が求められる。

キャリア教育の重要性

- 高校生活や卒業後のキャリアビジョンを生徒が描けることが必要である。
- 自分のやりたいことや将来のビジョンを持つ生徒は少ない。多様な選択肢が逆に迷いを生じさせることがあるため、個別の丁寧なキャリア教育が必要。
- 生徒や保護者に正しい情報を多様な方法で提供することが重要である。
- 自己理解を深めるためには内省が大切であり、生徒が自分で答えを導き出せるよう支援が重要である。
- 教員だけでなく、地域の人や外部専門家を活用し、未就学児から一貫したキャリア教育を進める体制を整え、高校でも一貫した指導できる仕組みが必要である。
- 高校在学中だけでなく、生徒が社会人になった後にも情報交換を続けるコミュニティの場を作ることが重要。

学びに困難を抱えた生徒への支援

- 学びに困難を抱えた生徒たちへの支援には予算も必要であり、全ての生徒に対する学びの環境を整えるために投資をすべきである。
- 多くの生徒が高校入学に期待感を抱くが、実際には適応できず不登校が再発する子どもも少なくない。そうした生徒たちを支える高校教育が重要である。

- 必要に応じて全日制、定時制、通信制を転課程できるような柔軟な仕組みの学びのセーフティネットがあるとすることで、生徒も安心して学ぶことができる。
- 多様な生徒への対応は教師だけでは難しく、外部専門人材を活用するための予算の確保が必要である。

3 その他

学びの分野の多様化の必要性と人材育成

- 寒河江工業高校の土木系学科がなくなり、最上地域の土木が学べる学科の生徒が数名しかいないことについて、地元経営者は将来の人材不足に危機感を抱いている。
- 社会生活を支える人材育成には魅力的な学科を設置するだけでなく、全体的な取り組みが必要である。
- 7月末の豪雨災害で、人口減少が進む地域のマンパワー不足が非常に深刻であり、特に町村レベルでは土木技術職の担い手が不足している。
- 建設業に携わる若い世代が減少している。

キャリア教育と地域体験

- 生徒本人のキャリア教育の充実と地元の人材育成を考えると、企業でのプログラムや地域体験、先進的なスマート農業などの先端技術との接点を増やすことが大切である。

学校と企業の連携

- 学校と企業の連携が重要であり、産業系高校の卒業生に限らず、普通科卒業生も採用するよう企業側の意識改革が求められる。
- 魅力的な仕事と教育環境の提供が重要で、経営者と教育現場の対話を通じて理解を広げるべきである。

学校を選ぶ側の視点

- 山形市立商業高校は施設が新しく、四年制大学への進学実績も豊富で人気が高い。
- 保護者の意見が進路選択に大きな影響を与えている。
- 県立高校が選ばれる学校になるためには、短期的に実現できる施設充実や進学実績の向上に向けた予算措置が必要である。

少子化と私立学校の競合

- 少子化によって生徒数が減少しているが、私立学校との競合が大きな要因である。
- 昔よりも学費の差が縮小し、私立学校を選びやすくなっている。
- 県立高校の優位性が減少し、中間層の生徒が私立を選ぶことが増えている。
- 私立学校の方が施設や設備が充実しているケースが多い。
- 私立高校は大学の附属高校が多く、進学先が明確であることが親にとって大きな要因である。

情報提供の必要性

- 県立高校についての正しい情報が提供されているか確認することが必要である。
- ホームページやオープンスクールだけでは不十分で、高校の教育で関わる人や体験する内容を知らせてもらうことが重要である。